



わたしの青少年赤十字

詩・100文字提案作品集



はじめに

青少年赤十字の大きな特色は、学校教育の中に組織され、教師の適切な指導のもとで実践されていることです。

青少年赤十字に加盟している学校では、子どもたちがより積極的に青少年赤十字活動を推進することによって、人間尊重の精神を育み、自らが豊かな人間性の醸成を図ってほしいと願っています。

そこで、福島県支部では、子どもたちが実践していること、思っていることを一〇〇文字程度に表現した「詩・一〇〇文字提案作品」を募集いたしました。

多数の優秀な作品の中から「日本赤十字社福島県支部長賞」「青少年赤十字福島県指導者協議会長賞」「福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞」を特別賞として選び、以下、「優秀賞」「佳作」「入選」を選定させていただきました。また、受賞した作品が多数の学校には「学校賞」を、五年連続で応募された学校には「学校奨励賞」を授与させていただきました。

今年度もこれらの受賞作品をまとめ、本冊子を刊行することができましたことに深く感謝いたします。「人道」の精神のもと、子どもたちが未来に大きな夢をもち、その実現に向けて努力する生き生きとした姿を感じ取っていただければ幸いです。

募集作品

□詩（いのちの詩・愛の詩）

人間のいのちはかけがえないもの。

そのいのちを守るために、自分や周りの人、生きものを大切にしなければなりません。そんなみなさんの素直な願いや感動を、そして未来に向けての夢・希望をぜひ詩に託して表現してほしいと願い、作品を募集しました。

□わたしの一〇〇文字提案

「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を次のテーマから選んで、自分の考えを端的に表現した作品を募集しました。

「わたしにできるボランティア」

「わたしのふるさと」

「わたしが感動したことはやでごと」

はじめに・募集作品

目次

特別賞及び学校賞・学校奨励賞

特別賞受賞者・学校賞・

学校奨励賞受賞校……………4

日本赤十字社福島県支部長賞…5

青少年赤十字福島県

指導者協議会長賞……………10

福島県青少年赤十字

賛助奉仕団委員長賞……………11

詩「いのちの詩・愛の詩」

優秀賞……………14

佳作……………17

入選……………25

一〇〇文字提案

「わたしにできるボランティア」

優秀賞……………28

佳作……………31

入選……………39

一〇〇文字提案

「わたしのふるさと」

優秀賞……………42

佳作……………45

入選……………51

一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばや できごと」

優秀賞……………54

佳作……………56

入選……………62

作品応募校……………63

年度別応募状況・令和三年度

テーマ別応募作品数……………64

作品審査を終えて……………65

審査にご協力いただいた皆様…67

〔表紙〕

日本赤十字社東京都支部

石田 遊星

特別賞受賞作品



日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

福島市立福島第一中学校

三年 伊藤 琉羽

「わたしにできるボランティア」

相馬市立飯豊小学校

一年 今野 愛将

「わたしのふるさと」

福島市立福島第一小学校

二年 紺野 寧奈

福島県立白河実業高等学校

二年 須藤 陽

「わたしが感動したことばやでござい」

相馬市立日立木小学校

四年 岡田 優月

青少年赤十字福島県指導者
協議会長賞

「いのちの詩・愛の詩」

郡山市立富田東小学校

三年 佐藤 璃空

福島県青少年赤十字賛助
奉仕団委員長賞

「いのちの詩・愛の詩」

福島市立福島第一小学校

一年 海野 大生

学校賞

福島市立福島第一小学校

郡山市立富田東小学校

相馬市立飯豊小学校

福島市立福島第一中学校

福島県立白河実業高等学校

学校奨励賞

鏡石町立鏡石第一小学校

矢祭町立矢祭小学校

学校法人松韻学園福島高等学校

日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

福島市立福島第一中学校 三年 伊藤 琉羽

疲れたからもうやめる
もう無理だ できない
そう思ったら
ゆっくり歩いてみる
速くても 遅くても
お前なら絶対たどり着ける
何度道を間違えても
俺はずっとお前の側にいるから
いつもの父とは違って
優しい言葉に感じた

「わたしにできるボランティア」

相馬市立飯豊小学校 一年 今野 愛将

おおきなうみ。

みんなたくさんわらってる。さかなもかにもたくさんとれたよ。

これはなに？

ひとがすてたごみもとれたよ。さかなもかにもわらっていられるように、

ぼくがごみをもってかえるね。

「わたしのふるさと」

福島市立福島第一小学校 二年 紺野 寧奈

わたしのふるさと。

二つのふるさと。

広くてでっかい中国と、山がいっぱい、みどりがきれいな日本。

地図の上ではちかいけど、とおくはなれた二つのふるさと。

心の中はいつもいっしょ。

一つのふるさと。

「わたしのふるさと」

福島県立白河実業高等学校 二年 須藤 陽

僕のふるさと

花火の里

昔の人への慰霊の花

思い届ける線香の火

十年前の大震災から

変わり続ける生活と

変わらず続く花火

人々の願いとともに

今年の夏の

夜空に咲く

「わたしが感動したことばやできごと」

相馬市立日立木小学校 四年 岡田 優月

小さな小さなとうもろこしの種。ぼくは、今年初めて種から
育ててみた。小さい種から芽がでて畑に植えた。畑には、ぼく
の背より高くなったとうもろこし。あまくておいしいとうもろ
こし。小さい種なのにすごいね。

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞

「いのちの詩・愛の詩」

郡山市立富田東小学校 三年 佐藤 璃空

ママが大きいばあちゃんのオムツをかえる。

弟が

「大人なのにオムツをするの」

と聞いた。

「人は、空に上るまでに赤ちゃんにかえる。

ママも赤ちゃんの時、かえてもらったからお返し。」

とわらうママは、やさしかった。

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

「いのちの詩・愛の詩」

福島市立福島第一小学校 一年 海野 大生

うえきばちのしたを

のぞいてみると

しろくてまるまったようちゅうがいた

ぶにぶにしている

とてもかわいい

ぼくは そつともにもどした

おおきくなって

でておいで

詩
「いのちの詩・愛の詩」



「いのちの詩・
愛の詩」

優秀賞

福島市立福島第一小学校

一年 穴戸結衣菜

一年 菅野 祥加

玉川村立玉川第一小学校

四年 須藤 花歩

白河市立東北中学校

一年 佐久間柑奈



「いのちの詩・愛の詩」優秀賞

福島市立福島第一小学校 一年 穴戸結衣菜

「いってらっしゃい。」

えがおでみおくれた。

おねえちゃんは、しゅくはくがくしゅうへ。

パパとママをひとりじめ。

だけどすぐにさみしくなって、ながいよ
るだった。

やっぱり、おねえちゃんといっしょが
いいな。

福島市立福島第一小学校 一年 菅野 祥加

ちいさい せなか

おおきな らんどせる

ちいさい あたま

おおきな きいろいぼうし

ちいさい からだ

おおきな うんどうぎ

ちいさい わたし

おおきな ゆめ

いってきます

玉川村立玉川第一小学校 四年 須藤 花歩

「ただいま」

帰るおうちがあるっていいな

「いただきます」

いっしょに食べる家族がいるっていいな

「おやすみなさい」

安心してねれるっていいな

「半分こ」

分けあえるっていいな

「ありがとう」

え顔になれるっていいな

白河市立東北中学校 一年 佐久間 柑奈

自分を愛せない人に

人のことは愛せない。

自分に余裕がない人に

人助けはできない。

持っていないものは

人にあげられないから。

自分の心を満たせると

溢れた分だけ

相手の心を満たせる。

「いのちの詩・
愛の詩」

佳
作

福島市立福島第一小学校

一年 山我 采葉

三年 富山 尊広

郡山市立富田東小学校

二年 遠藤ひなた

三年 小林龍之介

五年 滝口 莉菜

六年 小林 世愛

須賀川市立阿武隈小学校

三年 伊藤 外四

須賀川市立柏城小学校

四年 羽田 來民

四年 黒津ひより

須賀川市立大東小学校

四年 三村 柊斗

石川町立野木沢小学校

四年 二瓶 沙羅

白河市立表郷小学校

二年 近藤 陽菜

矢吹町立善郷小学校

六年 三村 優奈

猪苗代町立緑小学校

六年 村澤 心都

喜多方市立駒形小学校

五年 飯塚明桜里

相馬市立中村第二小学校

五年 畠山 結名

五年 佐藤 由阿

相馬市立飯豊小学校

一年 藤田 瑛泰

二年 堀川 莉愛

三年 野沢 怜央

福島市立福島第一中学校

一年 吉田 ゆり

三年 小島 希実

白河市立東北中学校

三年 佐藤 由菜

学校法人松韻学園福島高等学校

二年 鈴木 美紀

福島県立白河実業高等学校

一年 高野 桃花

『いのちの詩・愛の詩』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 山我 采葉

わたしのおとうと
みんながかわいがるとさみしかった。
でも、ちいさなで
わたしのてをぎゅつとにぎってくれたのが
あたたかくてかわいかった。
おとうとがげんきにそだってくれたらいいな。

福島市立福島第一小学校 三年 富山 尊広

ぼくのうちのきゅうり。
炎天下でも元気。
ぼくよりも元気。
毎日六本もしゅうかくできる。
そしてみずみずしい。
一日一回の水でぐんぐんそだっている。
きゅうりって強い。
いのちってすごい。

郡山市立富田東小学校 二年 遠藤ひなた

わたし、ねえねえが一ばんすき。
でも、ケンカもいっぱいするよ。
わたし、はずかしくて「ごめんね」って言えないの。
いつも、ねえねえが、ぎゅつとしてくれる。
いつか、「ごめんね」って言えるようになるからね。

郡山市立富田東小学校 三年 小林龍之介

走れる 笑える 食べられる
学べる ねむれる 起きられる。
できるが当たり前ではないけれど、
ぼくにできるじまんの「る」をむねをはってがんばる。
人にできない「る」があれば、
それを助ける「る」になりたい。

郡山市立富田東小学校 五年 滝口 莉菜

動物は人間と同じだ
同じ命を持ち
感情を持つ
ちがうところがあるなら
身勝手さがちがう
人間はかんたんだ
すぐに命をすてる
動物は必死だ
生きること必死だ
動物はすばらしい

郡山市立富田東小学校 六年 小林 世愛

お姉ちゃん来て
お姉ちゃん見て
お姉ちゃん聞いて
三才離れた弟の口ぐせ
たまに嫌になる時もあるけど
いないと寂しい私の弟
いるとうれしい私の弟
一緒にご飯を食べる時
家族で良かったと思う

須賀川市立阿武隈小学校 三年 伊藤 外四

ハムスターが死んだ
百グラムの命だったけれど
ぼくのかなしみはとても大きかった
もっとあそんであげたかった
もっといっしょにいたかった
いなくなっただけのこともあるんだな
小さいけれど大きな命

須賀川市立柏城小学校 四年 羽田 來民

おはよう
バイバイ
ありがとう
ごめんね
おめでとう
いっしょに遊ぼう
はずかしくて
ドキドキするけど
笑顔にする言葉
私も笑顔になる言葉

須賀川市立柏城小学校 四年 黒津ひより

お母さんの手はまほうの手。
お料理したり、せんたくしたり、かみをあんでくれたりする。
私もお母さんになったら、子どもにしてあげたい。
その時のためにお手伝いして覚えたい。
今は、私の手でお母さんのかたをもんであげる。

石川町立野木沢小学校 四年 二瓶 沙羅

「ごめんなさい。」
たった五文字の言葉なのに、
一秒で言えるのに、
わたしは言えない。
心の中では思っている。
でも口からは出ない。
だからわたしは、
「ごめんなさい」をす直に言える人になりたい。

須賀川市立大東小学校 四年 三村 柊斗

僕の幸せ
朝ご飯を食べること。
学校へ行けること。
友達と遊べること。
家族がいるということ。
目が見えるということ。
耳が聞こえること。
僕が生まれてきたこと。
毎日のあたりまえが、
僕が一番の幸せ。

白河市立表郷小学校 二年 近藤 陽菜

おばあちゃん、元気ですか。
おばあちゃんが作ったポテトサラダをまた、たべたいです。
夏休みにそだてたミニトマトで、スパゲッティを作りました。
おばあちゃんにも、たべてほしかったです。
天国でも元気できてね。

矢吹町立善郷小学校 六年 三村 優奈

何も知らないくせに
人の悪口を言い
罵倒して傷つける
それで 何人もの
命が奪われた

言葉で 人が殺せる
指先で 人が殺せる

みんな同じ 大切な命
みんな同じ 重さの命
いらない命はないのに

言葉で人が死ぬことが
なくなりますように

猪苗代町立緑小学校 六年 村澤 心都

ありがとう
伝えたいこの気持ち
でも少しはずかしい
だからこそ伝えたい
この気持ち
勇気を出して声に出す
相手がほほえむ
ニコッとほほえむ
私の心も
ニコッとほほえむ

喜多方市立駒形小学校 五年 飯塚明桜里

震災を経験した母
世界が終わると思うほどの恐怖の中、
〇才の私と二才の兄を両うでにかかえて、必死だったと言う。
守ってくれてありがとう。
一緒にいてくれてありがとう。
だから私は一生けん命生きていく。

相馬市立中村第二小学校 五年 畠山 結名

私のふるさとは
みんなと違う浪江町
町にいたのは一週間
だから覚えていない
でも一つだけ分かる
自分が生きているのは
きせきということ
だからこの命の感謝、重みを
たいせつに生きていく

相馬市立中村第二小学校 五年 佐藤 由阿

生まれたばかりの妹は
家族の中のリーダーなの。
妹が泣くと皆で抱っこ。
妹が笑うと皆が笑う。
眠たくなると皆で眠る。
そんな時間がすごく幸せで
大切な時間なの。

相馬市立飯豊小学校 一年 藤田 瑛泰

ころなにまけない。
ころなにかちたい。
いっぱいあそんで、いっしょうけんめいはしって、
からだをきたえるぞ。
いっしょうけんめいべんきようをして、
あたまをきたえる。
そして、さいごにぼくたちが、ころなにかつんだ。

相馬市立飯豊小学校 二年 堀川 莉愛

にゅういん中の
お母さん
会えないけれど
とおくのへやのまど
から見える母に
高く上げたこぶしで
「がんばって。」
とつたえる
わたしと兄と姉

相馬市立飯豊小学校 三年 野沢 怜央

ぼくには弟と妹がいる。
妹はまだ小さいから、イタズラをよくしている。
お母さんが口うるさくちゅう意すると
泣きながらぼくの方にやって来る。
そんな妹がかわいくて、
いっしょに「ごめんなさい。」を言っちゃうんだ。

福島市立福島第一中学校 三年 小島 希実

私のおばあちゃん。
いくつもの命の誕生を手助けしてきた助産師さん。
今もその小さな手にはあたたかく、
心強いおばあちゃんのぬくもりがある。
そんなおばあちゃんのぬくもりが、私は大好きだ。

福島市立福島第一中学校 一年 吉田 ゆり

ひいおばあちゃんが亡くなった
コロナの流行で面会もできないまま
通夜でひいおばあちゃんの姿を見た
もっとたくさん
おしゃべりをしてあげば良かった
コロナがおさまったら
祖父母にたくさん会いに行こう
そう
私は誓った

白河市立東北中学校 三年 佐藤 由菜

小さい頃、つないだ手
頭をたくさんなでてもらった手
大丈夫って肩をたたいた手
いつのまにか、手にはしわがたくさん
頑張ってきた証
今度は、私が支える番

学校法人松韻学園福島高等学校 二年 鈴木 美紀

十年前生まれた命
初めてだっこのしたときは
壊れてしまわないか心配だった
毎日ハグしているから
忘れそうになるけど
「おねえちゃん、ときどきしてるよ」
こんなに大きくなったんだね

福島県立白河実業高等学校 一年 高野 桃花

久しぶりに会ったおじいちゃんの腰は曲がっていた。
痛い、痛い何度もうるさい声を上げる。
しかし、私はその腰を見るたび、
歩きにくい体を支えるたび、
どれだけ一生懸命生きてきたかを感じる。



『いのちの詩・愛の詩』入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

一年 半澤 凜

一年 田中 健晴

二年 佐藤 優多

二年 半澤 穂佳

二年 落合 凉士

六年 曲山 綾香

須賀川市立阿武隈小学校

四年 山田 羽音

五年 折笠 釉娃

五年 高橋 彩華

須賀川市立柏城小学校

四年 吉田 唯

桑折町立睦合小学校

五年 半沢 明

鏡石町立第一小学校

六年 板橋 剣心

郡山市立薫小学校

一年 溝井梨津乃

石川町立野木沢小学校

六年 二瓶 大雅

郡山市立富田東小学校

三年 渡辺 愛乃

三年 佐藤 優羽

四年 長田 新太

四年 伊藤 柚乃

五年 岩室 莉央

五年 高橋 林

五年 渡邊 碧紀

五年 二瓶 七美

五年 安司 雛

五年 橋本 瞬亮

玉川町立玉川第一小学校

四年 須藤 和真

平田町立蓬田小学校

四年 大和田美翔

白河市立白河第五小学校

二年 須藤 雄大

二年 眞藤 透也

白河市立表郷小学校

四年 深堀 晶

四年 萩川 耀英

四年 戸井田 雅

五年 荒川 咲良

相馬市立中村第二小学校

四年 鈴木 陽翔

五年 竹花 希羽

相馬市立飯豊小学校

一年 荒川 剛毅

一年 林田 玲音

二年 鈴木 洋香

三年 佐土原みこと

六年 高玉 彩羽

六年 岡田 陽

相馬市立日立木小学校

一年 菊池 陽向

三年 塙 翼

三年 菊池 花菜

六年 伊藤 彩

南相馬市立八沢小学校

六年 相良 千尋

福島市立福島第一中学校

一年 関向銀次郎

一年 八巻 隆真

一年 佐藤 大吾

三年 安藤 海永

伊達市立伊達中学校

三年 浦野 文奈

白河市立東北中学校

一年 吉成 彩瑛

二年 大谷 香乃

三年 渡邊 有保

三年 平山 璃桜

学校法人松韻学園福島高等学校

二年 後藤かなえ

福島県立白河実業高等学校

二年 國井 玲奈

二年 眞岡 愛咲

三年 大口 峻兵

三年 丸山 柊斗

学校法人尚志学園尚志高等学校

二年 佐藤 つみき



一〇〇文字提案

「わたしにできるボランティア」



「わたしにできる
ボランティア」

優秀賞

郡山市立富田東小学校

四年 會田 絢望

平田村立蓬田小学校

四年 川西 美桜

白河市立東北中学校

三年 鈴木 朱莉

福島県立白河実業高等学校

三年 根本 佳乃



「わたしにできるボランティア」優秀賞

郡山市立富田東小学校 四年 會田 絢望

私は、言葉のぼう力で心が傷付いた。

とても苦しかった。けれど、先生や両親

から元気になる言葉の薬をぬってもらっ

た。心の傷が治ったら、苦しんでいる人

にはげましの言葉の薬をぬって助けてあ

げたい。それが私のボランティア。

平田村立蓬田小学校 四年 川西 美桜

私の長いかみの毛。いろんなかみがた

出来ちゃうよ。二回目のヘアドネーショ

ン。チョコキチョコキと三十センチも切っち

やった。だれかの役に立てるなら、おか

っぱ頭も悪くない。心ぽかぽか、気分す

っきり。また、のばそう。

白河市立東北中学校 三年 鈴木 朱莉

家族と海で遊んだとき、白い砂浜に美しい貝と風に吹かれて飛ぶビニール袋、砂浜の中に埋まるプラスチック、それを見て悲しくなった。

何でそんなことをするんだろうと疑問に思いながら、自分もそうしてないか考え、ゴミを拾った。

福島県立白河実業高等学校 三年 根本 佳乃

生まれてはじめて献血に行ったのを昨日のこのように覚えています。はじめての経験や血が抜けていく感覚に両手が冷えきっていました。だけど、自分の血で誰かの命を助けることができると思うと、心が温かくなりました。

「わたしにできる ボランティア」

佳作

福島市立福島第一小学校

一年 佐藤 佳乃

二年 高橋 京吾

四年 佐藤 大泰

桑折町立睦合小学校

五年 佐藤 柊

五年 岡崎 陽莉

郡山市立薫小学校

一年 遠藤 芙蓉香

郡山市立富田東小学校

四年 二瓶 日菜

五年 岡田 有紀菜

六年 笹山 莉衣奈

須賀川市立阿武隈小学校

四年 橋本 莉々

六年 羽田 夢香

須賀川市立大東小学校

六年 熊谷 優芽

鏡石町立第一小学校

五年 渡部 瑠依

石川町立野木沢小学校

二年 佐藤 太耀

玉川村立玉川第一小学校

三年 矢吹 日奈理

四年 小木 舜士

白河市立表郷小学校

二年 角田 美優

南会津町立松沢小学校

三年 湯田 龍芽

相馬市立飯豊小学校

四年 小迫 悠人

相馬市立日立木小学校

二年 星野 蓮

南相馬市立八沢小学校

六年 三浦 由貴奈

伊達市立伊達中学校

三年 佐藤 千咲

須賀川市立第三中学校

一年 小林 花奈美

一年 斉藤 希

福島県立白河実業高等学校

二年 青木 路佳

三年 金沢 英虎

三年 荒井 彩音

福島県立勿来工業高等学校

二年 根本 結成



『わたしにできるボランティア』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 佐藤 佳乃

わたしは、さんぽちゅう、みちばたのごみをあつめています。
おじいさんに、

「きれいにしてえらいね。」

といわれました。みんながきもちよくて、えがおでいられると
わたしもうれしいです。

福島市立福島第一小学校 四年 佐藤 大泰

町内会清掃に参加した。草でいっぱいだった歩道がスツキリ
した。町のみなさんに、

「ありがとう。」

と感謝された。早起きしてよかった。これからみんなが快適
にくらせるように、様々な所をきれいにしたい。

福島市立福島第一小学校 二年 高橋 京吾

ぼくは、声が大きい。

うるさいといわれることが多いけど、あいさつのときは、ほ
められる。

だから、あいさつうんどで大きな声であいさつをして、み
んなが元気でえがおになるように、がんばりたい。

桑折町立睦合小学校 五年 佐藤 柊

世界で極度の貧困に当てはまる人は約七億人以上。そんなに
いるのか。ぼくは、毎日、何も困っていない。だからこそ、物
を大切に使用したい。食べ物や水も大切にしたい。もったいない
という気持ちが必要だと思う。

桑折町立睦合小学校 五年 岡崎 陽莉

私が三年間のばし続けた長い髪。

この髪は、苦しみを笑顔にかえる魔法のウィッグに変身する。

私の髪でウィッグを作り、少しでも早く困っている人に届きま
すように。そして、その人が幸せになれるように。

郡山市立富田東小学校 四年 二瓶 日菜

私にできたボランティアは、おじいちゃんとのゴミ拾い。い
ろいろなゴミがあつたけれど、一生けんめいゴミを拾った。ふ
くろの中にはたくさんさんのゴミが集まった。私の町がきれいにな
って、私の心もきれいになった気がした。

郡山市立薫小学校 一年 遠藤芙美香

わたしのおじいちゃんは、まえからからだがおじゆうなので、
かおをふいてあげたり、くつしたをはかせたりしておてつだい
をしています。ほかにこまっている人がいたら、おてつだいを
してたすけてあげたいとおもいます。

郡山市立富田東小学校 五年 岡田有紀菜

家の近くには踏切があります。たまに電動カートで渡るおば
あさんを見かけます。私は不安になりました。踏切で動けなく
なったらどうしよう。母に聞きました。

「非常ボタンを押すんだよ。」

小さな準備で、大きな一歩。

郡山市立富田東小学校 六年 笹山莉衣奈

私は、いろいろな動物を保護して、死の悲しみをしっています。人間の命も、動物の命もみんな同じです。私はお母さんと協力し、多くの動物を里親に出し、幸せにしています。だから、命の大切さを考えてみてほしいです。

須賀川市立阿武隈小学校 四年 橋本 莉々

社会でゴミについて学んだ。その時、ゴミを拾うことも大切なボランティアだと知った。魚がプラスチックを食べて死んでしまうとニュースで見た。ゴミを拾うのは小さなことだけど、生き物の命をすくうのは大きなことだ。

須賀川市立阿武隈小学校 六年 羽田 夢香

私は、お店で買い物をした。その時、何げない気持ちで十円を募金した。

「ありがとうございます。」

と言う店員さんの笑顔に、支援を受ける子ども達への愛情を感じた。この笑顔を広げるために、また十円募金したい。

須賀川市立大東小学校 六年 熊谷 優芽

花だんの草むしりをしました。ぬいた草を入れるバケツを持つて来ただけなのに、

「ありがとう。」

と、言われました。今度は、その草をすてに行きたくなりました。人の役に立てるって楽しいなと思いました。

鏡石町立第一小学校 五年 渡部 瑠依

今年、ヘアドネーションをしました。一年生からずっと伸ばし続けたかみを三十センチ以上切りました。お別れするのは悲しかったけど、私の髪で作ったウィッグで喜ぶ人がいて、役立てたらもっと嬉しいです。

玉川村立玉川第一小学校 三年 矢吹日奈理

わたしは、毎日歩いて通学しています。歩いていると中、道にゴミが落ちているのが気になっていました。休みの日に散歩をしながらゴミ拾いをしたら、いつもの道がびかびか光るように見えて、うれしくなりました。

石川町立野木沢小学校 二年 佐藤 太耀

ぼくには、なにができるか。小さい子がこまっていたら、手をつないであげる。大きい子がこまっていたら、いっしょに考える。大人がこまっていたらまだなにもできないけれど、たすけてあげれる人になりたい。

玉川村立玉川第一小学校 四年 小木 舜士

花だんの花の元気がなかったの
でぼくは花に水をあげた
今日も暑いね
一日、がんばろう
しおれていた花が
ぼくの水でしゃきつとした
元気になった花を見て
ぼくも元気になった

白河市立表郷小学校 二年 角田 美優

わたしができることをする。

おかあさんは、しごと、かじ、かいごにおおいそがし。なにかこまっていたら、わたしがおてつだいする。おかあさんの「ありがとう」のことばが、わたしはとてもうれしい。

相馬市立飯豊小学校 四年 小迫 悠人

ぼくは長い髪を切った。三年くらいのはした長い髪だ。女の子みたいだねって言われた事もあった。

切った髪はガンで苦しむ子どもたちのためにきふした。会った事のない人たちのために、ぼくはぼくにできる事をがんばった。

南会津町立松沢小学校 三年 湯田 龍芽

ぼくが朝校ていを見ると、草がぼうぼうに生えている。だから朝のじゅんぴを早くすませて、紅白ぼうしをかぶり、校ていに向かう。そして、朝の八時まで一生けんめい草むしりをがんばる。バケツに草がたまってくると、まんたんにしようという気もちがわいてくる。

相馬市立日立木小学校 二年 星野 蓮

ぼくのお父さんは、「けんけつ」をします。

「どうしてするの。」

ときくと、

「けんけつは、いのちをつなぐボランティア。」

といいました。ぼくも大きくなったら、たくさんのいのちがすくわれるように、きょうりよくしたいです。

南相馬市立八沢小学校 六年 三浦由貴奈

学校のすてきな花壇
みんなで協力し合い
水やりをし
花たちが笑顔でさく
その笑顔につられて
全校生が明るくなる
今日もがんばろうという気持ちになる

伊達市立伊達中学校 三年 佐藤 千咲

最近、「献血」というものにとっても興味があります。私から採った血が、誰かの命につながるなんて、とても綺麗なことだと思いました。私はまだ十五歳でできないけど、十六歳になったら私も誰かの命につながりたいです。

須賀川市立第三中学校 一年 小林花奈美

私は、小学校五年生の時、ヘアドネーションをしました。三十五センチのかみの毛をきふしました。私のかみの毛で、一人でも多くの人の役に立ちうれしかったです。二十才になるまであと三回くらいきふしたいです。次は、中学二年生でしたいです。

須賀川市立第三中学校 一年 斉藤 希

ゴミを拾った。決してだれかにほめられるわけではないけど、すごくいい気持ちになった。募金をした。自分の行動でだれかが喜んでくれているのを、想像するととても快くなった。だれかのために行動するっていいな。

福島県立白河実業高等学校 二年 青木 路佳

「髪、長いね」と言われると私は嬉しく思います。なぜならヘアドネーションのために伸ばしているからです。「伸ばすのは大変」だとよく聞きます。確かに大変ですが、苦労した分だけきっと私は、笑顔になれるから。

福島県立白河実業高等学校 三年 荒井 彩音

病気や怪我をして、輸血を必要としている人の為になればと思い、先日初めて献血に行きました。献血をすることで、間接的に誰かの命を救うことができます。その誰かの為に、これからも献血に行きたいと思っています。

福島県立白河実業高等学校 三年 金沢 英虎

声を掛ける
耳を傾ける
手助けをする
手を差しのべる
小さな事でも
みんなが集まれば
沢山の手助けができる
ボランティア
助け合いの大切さ
みんなに知って欲しい

福島県立勿来工業高等学校 二年 根本 結成

家の近くを歩いていると、ゴミがたくさん落ちていたので拾った。風が運んだものだろうか？それともポイ捨てだろうか？ふり返って見た道は綺麗で、清々しい気持ちになった。ボランティアは心の洗濯だ。

「わたしにできるボランティア」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

一年 長谷部 柚衣
一年 田村 知輝
二年 渡辺 亜郎
二年 尾形 燈理
三年 大関 歩花
五年 長谷部 謙助
五年 小峯 孝太郎

郡山市立富田西小学校

五年 安藤 和樹

須賀川市立阿武隈小学校

五年 池田陽世里

須賀川市立大東小学校

六年 山本 和史

桑折町立睦合小学校

五年 佐藤 琉葵
五年 浅野 蓮心
六年 羽田 旬吾

六年 佐藤 広絆
六年 安藤 佐介
六年 福崎 悠哉

鏡石町立第一小学校

五年 小平めぐみ

郡山市立薫小学校

六年 小島 向葵

石川町立野木沢小学校

六年 佐藤 咲空

郡山市立富田東小学校

四年 坂本 健悟
五年 三本 菅杏南
六年 宇佐見 陸
六年 大竹 佑祁
六年 佐藤 俐宥

白河市立白河第五小学校

二年 加藤 愛衣

白河市立表郷小学校

三年 緑川 詩織
四年 小貫 歩夢
四年 和知 恭佑
四年 沼田 晴花
六年 鈴木 心月
六年 萩川 絢斗

矢吹町立善郷小学校

四年 高荒 希空

棚倉町立近津小学校

五年 鈴木 悠斗

矢祭町立矢祭小学校

四年 本田 瑛士
五年 鈴木 夏帆
六年 鈴木 梨心

猪苗代町立緑小学校

六年 小檜山悠斗

南会津町立松沢小学校

五年 湯田芽衣奈
五年 大竹 匠
六年 星 理名

相馬市立中村第二小学校

四年 松本 珠空

相馬市立飯豊小学校

二年 遠藤 心湖
二年 佐藤 学
三年 守田 煌霸
四年 守田 結夏
五年 金野 朔

相馬市立日立木小学校

三年 伊藤 駿
四年 大迫 凜藍
六年 菅野 星来

南相馬市立八沢小学校

六年 遠藤 優海
六年 山田 真央

福島市立福島第一中学校

一年 木村 蒼衣

一年 小島 志織

一年 村上 彩華

三年 島貫ひなた

伊達市立伊達中学校

一年 大澤 那奈

白河市立東北中学校

一年 鈴木 菜々

二年 塩山 伶

福島県立白河実業高等学校

二年 古川 優翔

二年 大橋 真弥

三年 水野 友琳

三年 井上 天

福島県立勿来工業高等学校

一年 小山 修輝

三年 吉田 琉斗

学校法人昌平塾東北本国際大学附属昌平高等学校

三年 大友 心優

福島県立平支援学校 高等部

二年 洲崎 亜弥



一〇〇文字提案

「わたしのふるさと」



「わたしの
ふるさと」

優秀賞

郡山市立富田東小学校

五年 遠藤しのぶ

相馬市立飯豊小学校

二年 大谷 和玖

福島市立福島第一中学校

三年 阿部 亨南



「わたしのふるさと」優秀賞

郡山市立富田東小学校 五年 遠藤しのぶ

どんなに世界が変わっても、私の毎日
は変わらない。あたり前に生きていける
のは、顔も名前も知らない誰かが私を支
えてくれるからだ。私の学校から郡山の
街が見える。支え合っている人が住んで
いる。ここが私のふるさと。

相馬市立飯豊小学校 二年 大谷 和玖

ぼくのおうちから、かろうさんの山が
見える。
ぼくは、五才のころ、まいしゅうおと
うさんとのぼっていた。
ちようじょうからは、相馬の町と海が
見えた。
「ヤッホー。」
ぼくのこえは、ふるさとの町や海にと
どいたかな。

福島市立福島第一中学校 三年 阿部 亨南

美術室から見えた空は、美しい茜色だった。友達と、きれいだね、とはしゃぎながら帰った。空があかいだけで笑顔になれた。

ずっと忘れないあの空の色とあの瞬間。また、茜色を見られるだろうか。



「わたしの
ふるさと」

佳
作

福島市立福島第一小学校

三年 国分 大士

四年 小野寺由真

南会津町立松沢小学校

四年 鈴木ゆめか

六年 掃部 真那

桑折町立睦合小学校

五年 齊藤 優空

相馬市立中村第二小学校

四年 草野 光亮

六年 南部小羽音

郡山市立富田東小学校

三年 大内 廉士

相馬市立飯豊小学校

二年 飯塚 絃羽

四年 横山 杏

須賀川市立小塩江小学校

六年 吉田 陽稀

須賀川市立第三中学校

一年 岩谷 芽依

白河市立表郷小学校

四年 荒井 美虹

六年 川口 愛佳

福島県立白河実業高等学校

三年 久保木晴渡

矢祭町立矢祭小学校

四年 生田目麻理映

猪苗代町立緑小学校

五年 村澤 寿々



『わたしのふるさと』佳作

福島市立福島第一小学校 三年 国分 大士

あの日から十年たった。忘れたいこと、忘れちゃいけないこと、忘れたいけど忘れられないことが生まれた。

でも、大丈夫。福島の未来はぼくたちにまかせて。だってぼくは「ふるさと福島」がとっても大好きだから。

桑折町立睦合小学校 五年 齊藤 優空

山、川、いろいろな虫の声。色あざやかで、栄養満点の夏野菜。そして、大人気の桃。みんなわたしの好きな物。季節によって変わる景色、音、かおり。

わたしは、ふるさとで、幸せいっぱいに過ごしている。

福島市立福島第一小学校 四年 小野寺由真

お母さん お父さんが
味わたたこわさ

それをまだわたしは知らない

震災のこわさ

関係ないで終わってはいけない

知らないからこそ

知らなければいけない

あの日のこと

郡山市立富田東小学校 三年 大内 廉士

一月に大好きなおじいちゃんがなくなった。おじいちゃん分、かふんつけ、てきかやふくろかけのリングゴのお手伝いがんばった。お盆に赤く実ったリングゴをぼんだなにかざった。天国のおじいちゃん、食べてくれたかな。

須賀川市立小塩江小学校 六年 吉田 陽稀

ぼくのふるさととは須賀川市。家の周りは、見わたす限り自然があふれている。ミンミンと鳴くセミの音色。夜は満天の星空が広がる。
でも一番最高なのは、じいちゃんが育てたきゅうりだ。最高にうまいんだよなあ。

白河市立表郷小学校 六年 川口 愛佳

私のふるさととは、東日本大震災で苦しんだ。みんな自分のことで大変なのに、協力し合っていたことを知り、たくさんの人、一人一人が信じ合っていていいなと思った。「私もそんな人になりたいな。」と思えるきっかけになった。

白河市立表郷小学校 四年 荒井 美虹

水は つやつや
ビャッコイ
きらきら ひかてる。
きれいだな。
きれいだな。
家族、友達、
表郷のみんなが
思っている
大事にしたい
わたしのふるさとの
ビャッコイ。

矢祭町立矢祭小学校 四年 生田目麻理映

やさしい町。きれいな町。自然と人が助けあい、人と人が助けあい。
みんながみんなを助けあい。やさしい町がうまれるよ。みんながみんなを助けあったから、キレイな町がうまれるよ。おとなになってもつづくといいな。やさしい町。キレイな町が。

猪苗代町立緑小学校 五年 村澤 寿々

朝起きると鳥の声。家の周りは、田んぼ一面と畑、森でおおわれている。この猪苗代町で家族みんなで外で遊ぶのが大好きだ。夏には山の水で水遊び。冬の際はゆきがっせんやかまくらを作る。こんな猪苗代が大好きだ。

南会津町立松沢小学校 六年 掃部 真那

私が育った南会津町は、虫が地をはい鳥がさえずり動物たちがおだやかにくらし草木が風にゆられ花があざやかにさく自然豊かな町だ。これらがある日常は、ふつうに見えて、本当はとても特別なことなんだ。

南会津町立松沢小学校 四年 鈴木ゆめか

わたしのまわりには、たくさん自然がある。その自然は、だれが作ったのかなとも考える。そう考えた後は、心があたたかくなる。みんなで守ってきた自然。いつもそばにいてくれる自然。その自然を見ていると、これからがんばろうと勇気がわいてくる。

相馬市立中村第二小学校 四年 草野 光亮

ぼくのふるさとには福島県。きれいで美しかったのに、大しん災でひがひがあり、大きな魚もとれなくなった。海がよごれてしまった。ぼくは、大事なふるさとの美しい海を守っていききたい。父と同じ漁師になって。

相馬市立中村第二小学校 六年 南部小羽音

私のふるさとは、キラキラがやいている海が自慢。たくさんとれるおいしい魚も自慢。すてきな海にかこまれて、もうすぐ十二年をむかえる。これから末永く、このすてきな相馬で生きていこうと思う。

相馬市立飯豊小学校 四年 横山 杏

わたしのふるさとは、馬がいる。馬とともに生きて、生活もしている。夏の祭りに一年のすべてをかけて生きている。今は、祭りはできないけれど、いつかまた大好きな祭りができることを信じて私は馬に乗る。ふるさとで。

相馬市立飯豊小学校 二年 飯塚 絃羽

「ピカ ピカ ピカ」

「ピカ―ピカ―」

となりのはるき君とホタルを見に行った。

そこは、わたしの、

大すきなばしょ。

「台風でへったけど、またふえてきたな。」

じいちゃんが言ってた。来年は、もっとたくさん見れるかな。

大すきなばしょで、きれいなホタル。

須賀川市立第三中学校 一年 岩谷 芽依

私はふと目を向けると、そこには一所懸命がんばっていたまつを運んでいる人々がいた。とても目が輝いていてまぶしかった。「がんばって運ぶぞ！」という気持ちがあふくと伝わった。これぞ須賀川伝統たいまつあかしだ。

福島県立白河実業高等学校 三年 久保木晴渡

東日本大震災から十年
復興していない市町村
汚染による風評被害
様々な問題がありながら
ふるさとの人々は頑張って生活している。
どんなことがあっても諦めない。
そんな人達が、ふるさとは沢山いる。



『わたしのふるさと』入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

一年 富山 愛彩
三年 長谷部 蒼汰

白河市立表郷小学校

二年 伊東 愛香
六年 鈴木 瑠那

相馬市立中村第二小学校

五年 木村 友乃
五年 石田 朱莉

学校法人松韻学園福島高等学校

二年 後藤 元輝

桑折町立睦合小学校

五年 穂積恵未名

矢祭町立矢祭小学校

六年 深合 凜
六年 熊田紗也香

相馬市立飯豊小学校

一年 羽根田好美
一年 池田 彩寧
二年 菅野 清太
四年 佐藤 静波
五年 佐藤 汰珂良
六年 齊藤 悠太
六年 小迫はるひ

福島県立白河実業高等学校

二年 菊池 乃愛
二年 鈴木 寛人
三年 大竹 颯人

郡山市立富田東小学校

四年 影山 雄作
四年 落合 正人
四年 松崎 太希
五年 林 咲空
六年 荒井 大和

猪苗代町立緑小学校

五年 佐藤 暖花

南会津町立松沢小学校

三年 湯田茉結奈
四年 岩崎 蔵真
六年 杉原 心音
六年 湯田 姫凧
六年 金井 音也
六年 吉田ななみ

相馬市立日立木小学校

二年 遠藤 優信
五年 菊池 颯良

須賀川市立阿武隈小学校

六年 川口 彩香

須賀川市立大東小学校

四年 溝井 颯太
六年 米山 徹汰

福島市立福島第一中学校

一年 坂野 奏太
三年 高畠 和花

只見町立只見小学校

一年 菅家 賢心

石川町立野木沢小学校

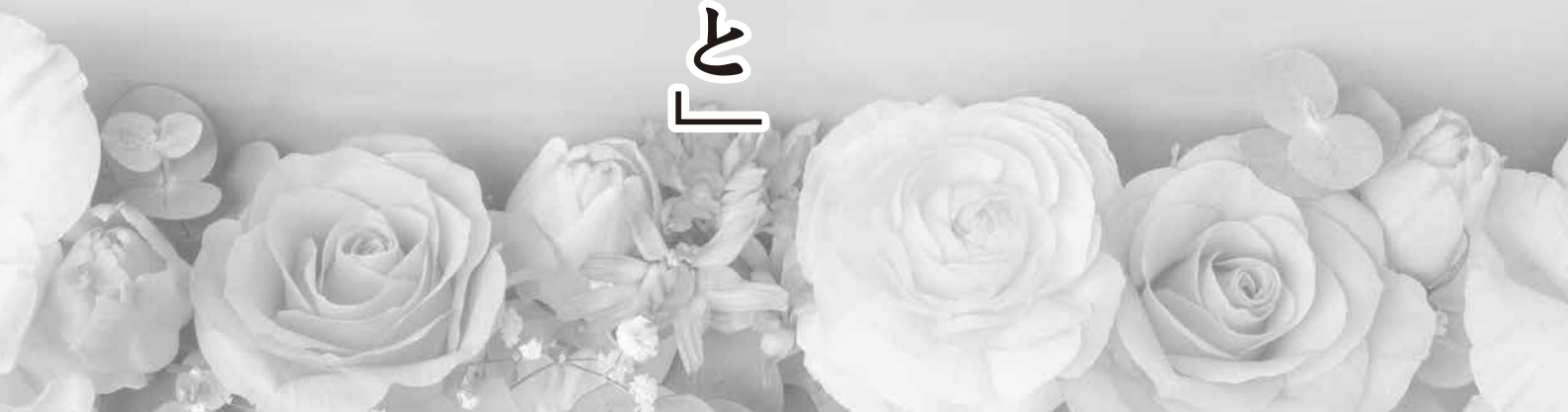
六年 吉田 智哉

須賀川市立第三中学校

一年 加賀さくら
一年 関根悠姫奈

一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばやできごと」



「わたしが感動した
ことばやできごと」

優秀賞

須賀川市立阿武隈小学校

五年 遠藤かのん

相馬市立日立木小学校

五年 阿部 恵佑



『わたしが感動したことばやできごと』優秀賞

須賀川市立阿武隈小学校 五年 遠藤かのん

「あんまりそういうこと言わない方がいいよ。」私の大好きな友達は、私がいやな思いをしている時に助けてくれました。私には言えるかな。そんな勇氣あるかな。私も友達を助けられる勇氣を持ちたい。相手の気持ちを考えられるようになりたい。

相馬市立日立木小学校 五年 阿部 恵佑

左半身マヒのぼくのおじいちゃんは車イスに乗ることもある。言葉もうまく出ないけど、野球の試合を見に来てくれる。僕の体は動く。話せる。丈夫な体に感謝して。投げるよ、打つよ、走るよ、取るよ、守るよ、頑張るよ、見ててね、おじいちゃん。

「わたしが感動した
ことばやできごと」

佳
作

福島市立福島第一小学校

六年 大関 和真

郡山市立富田東小学校

三年 吉田 千紗

四年 伊藤 松菜

四年 菅野 芽生

六年 久保 陽

須賀川市立阿武隈小学校

六年 熊田 洸星

須賀川市立大東小学校

六年 熊谷 美幸

猪苗代町立緑小学校

五年 古内 駿多

相馬市立飯豊小学校

一年 紺野 咲楽

六年 林 創士

相馬市立日立木小学校

二年 臺内 葵

福島市立福島第一中学校

一年 佐藤 玲奈

一年 加藤 楓璃

三年 渡邊 杏

白河市立東北中学校

一年 山口 凜

二年 栗崎 鈴也

学校法人東稜学園福島東稜高等学校

二年 佐川 純華

学校法人尚志学園尚志高等学校

二年 五十嵐 伶奈

学校法人国際学園星槎国際高等学校郡山学習センター

二年 三浦 鎧



「わたしが感動したことばやできごと」佳作

福島市立福島第一小学校 六年 大関 和真

私が感動した言葉は、「やらないで後悔するより、やって後悔する」です。その言葉を思い出すと、人任せにせず自分から行動したりすることができます。これからこの言葉を思い出して、進んで行動していきたいです。

郡山市立富田東小学校 四年 伊藤 桜菜

「桜菜が大きくなるまでは、歯をくいしばってがんばるからな。」というおじいちゃん言葉。みんなのお父さん、お母さんは、若くて元気だけど、わたしたちは、小さいころから父母に育てられている。その言葉を受け止めて、わたしも何があってもがんばっていく。

郡山市立富田東小学校 三年 吉田 千紗

より道しちゃった時、すごく心ばいしてくれた、お父さん、お母さん。すぐくおこられた。でも、夜に、「いつも、元気でありがとうね。」
と言ってくれた。すぐくうれしくて、へんな顔をしてわらわせた。

郡山市立富田東小学校 四年 菅野 芽生

わたしがかぜをひいた時、おさない妹に「大丈夫、早く元気になってね」と言われた。うれしかったと同時に、なぜいつその言葉を覚えたか。そうだからの時、同じ言葉を妹にいった。思いやる気持ちを通じた感動した。

郡山市立富田東小学校 六年 久保 陽

誰かにやさしくされたら「ありがとう」
友達とけんかをしたら「ごめんなさい」
誰かが困っていたら「大丈夫？」
ぼくが今まで言われて嬉しかった言葉。
ぼくも素直に言える人になりたい。

須賀川市立大東小学校 六年 熊谷 美幸

私が三年生の時、柔道の古賀稔彦選手に会った。病気でなくなってしまう今も、一緒にとってもらった写真が残っている。県大会で優勝した私を、古賀さんはほめてくれるだろうか。見ていてくれるといいな。

須賀川市立阿武隈小学校 六年 熊田 洸星

「いつ病気になるかわからない。」そう言われたとき「なぜ」と思った。母は白血病になる可能性があるらしい。でも、母は笑いながら「もしなってもだいじょうぶ。楽しく生きる。」と言ってくれた。胸が熱くなった。

猪苗代町立緑小学校 五年 古内 駿多

ぼくは、陸上の練習、高跳びで最後の一人になった。みんなの気持ち伝わった。「いけ。」っと。そして、百二十cmを跳んだ。みんなが「おおお。」とさけぶ。自分の気持ち、集中、みんなの思いが一つになって跳べた高跳び。

相馬市立飯豊小学校 一年 紺野 咲楽

わたしのにがてなさか上りのれんしゅう。
しっぱいしておちこんでいると、ともだちのみんなが「がんばれ」と、おうえんしてくれた。ゆうきをふりしぼって、トン
トンくるっと。はじめてできた！
みんなありがとう。

相馬市立飯豊小学校 六年 林 創士

ゴミが落ちていてもぼくはいつもスルーする。だって、ぼくの
じゃない。テレビで大谷翔平が落ちているゴミを拾ってポケ
ットに入れた。人の落とした運を拾っているらしい。すぐくか
っこよかった。ぼくも、そうだろう。

相馬市立日立木小学校 二年 臺内 葵

せみが、うかをするばしよをなかなかきめられずにいるところ
を見た。羽をかわかすときにじかんがかかる。そのあいだ、
とりにたべられないようにするため。はじめて土から出てきた
のだから、なやむのかな。たくさん考えるのもいいことなんだ
と思った。

福島市立福島第一中学校 一年 佐藤 玲奈

「人を信じよ、しかし、その百倍も自らを信じよ。」という、手
塚治虫の言葉がある。その言葉で、自分は新しい事に挑戦する
ことができ、前よりももっと相手を信じることができた。自分
ができるようになったこともふえ、前より日常が楽しくなった。

福島市立福島第一中学校 一年 加藤 楓璃

白河市立東北中学校 一年 山口 凜

「諦めなければ失敗ではない」って言葉がある
言葉一つで様々なことが変わる
今は 諦めるのも簡単だ
でも 諦めず頑張った先には
もっといいものがある
そう信じて前へ進む
短くても確実に

帰る場所がある。
大好きな家族がいる。
みんなの声が聞こえる。
「おかえり」
って言われると安心する。
言ったら消せない言葉でも、一つの言葉で人は安心するんだね。

福島市立福島第一中学校 三年 渡邊 杏

白河市立東北中学校 二年 栗崎 鈴也

私が十二歳のとき、弟がうまれました。
病院で唯一、命がうまれる場所。
面会に来た私に、助産師さんが教えてくれました。命がうま
れる場所は、世界一あたたかくて、愛と幸せに包まれていまし
た。

「遊ぶ時は、本気で遊べ。がんばるときは、本気でがんばれ。」
お父さんがよくに言ってくれた、心に残る大切な言葉だった。
ぼくはあの言葉を言ってもらってからは、本気で、大好きな
ゲームをし、本気で、嫌いな勉強をがんばっている。
お父さん、ありがとう。

学校法人東稜学園福島東稜高等学校 二年 佐川 純華

私が感動したことばやできごとは、先日友達が「親からもらう初めてのプレゼントは名前だ」と言っていたことです。この言葉を聞いてから、今まで何とも思っていなかった名前が、一瞬で大切な贈りものになりました。

学校法人国際学園星槎国際高等学校郡山学習センター 二年 三浦 鎧

うまくいかなかったときの母の言葉。「できないところを指摘されるのは、力をつけるためであって、自分自身が否定されているわけでは、ないよ。」
ありがとう。自信を持って頑張るね。

学校法人尚志学園尚志高等学校 二年 五十嵐伶奈

私には癌で亡くなった祖母がいる。私が病院に行き面会をすると、ベットに横たわっている祖母は私の顔を見て必ず優しい笑顔を見せてくれた。言葉でなくても、笑顔一つであたたかい気持ちになることを学んだ。

「わたしが感動したことばやできごと」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

四年 藤原 千樹

四年 桜内 心愛

六年 角田偉知郎

桑折町立睦合小学校

五年 地切 絢人

郡山市立薫小学校

六年 渡部 ふう

須賀川市立阿武隈小学校

三年 小松 俊介

須賀川市立柏城小学校

四年 遠藤 羽乃

須賀川市立大東小学校

一年 芦野 愛

鏡石町立第一小学校

五年 大河原琉徠

白河市立表郷小学校

四年 齋須 蒼空

矢吹町立中畑小学校

六年 関根瑠莉花

只見町立只見小学校

六年 鈴木 雛乃

相馬市立飯豊小学校

一年 斎藤 結斗

一年 松本 実希

四年 林田 彩葉

相馬市立日立木小学校

二年 伏見 仁心

五年 亀岩 未愛

五年 山田 琳久

双葉町立双葉南小学校

六年 渡部 咲

福島市立福島第一中学校

一年 齋藤きくみ

三年 仲川 瑠南

伊達市立伊達中学校

三年 梅津 碧

須賀川市立第三中学校

一年 塩田 美來

一年 斎藤しずく

一年 西槇 美琴

一年 鈴木 領王

白河市立東北中学校

二年 十文字彩香

二年 有賀 暖南

福島県立白河実業高等学校

二年 辻村 光

二年 三島 美咲

二年 松本 友斗

三年 本宮 夕椰

三年 笹島 竜侍

学校法人昌平學東北国際大学附属昌平高等学校

二年 遠藤はるか

作品応募校

平田村立蓬田小学校	伊達市立伊達中学校
白河市立白河第五小学校	郡山市立高瀬中学校
白河市立表郷小学校	須賀川市立第三中学校
矢吹町立中畑小学校	石川町立石川中学校
矢吹町立善郷小学校	白河市立東北中学校
棚倉町立近津小学校	学校法人東稜学園福島東稜高等学校
矢祭町立矢祭小学校	学校法人松韻学園福島高等学校
猪苗代町立緑小学校	福島県立須賀川高等学校
喜多方市立駒形小学校	福島県立白河実業高等学校
南会津町立松沢小学校	学校法人尚志学園尚志高等学校
只見町立只見小学校	学校法人国際学園星槎国際高等学校郡山学習センター
相馬市立中村第二小学校	福島県立勿来工業高等学校
相馬市立飯豊小学校	学校法人昌平黌東日本国際大学附属昌平高等学校
相馬市立日立木小学校	福島県立平支援学校 高等部
南相馬市立八沢小学校	
双葉町立双葉南小学校	
福島市立福島第一中学校	
玉川村立玉川第一小学校	
石川町立野木沢小学校	
鏡石町立第一小学校	
須賀川市立大東小学校	
須賀川市立柏城小学校	
須賀川市立阿武隈小学校	
須賀川市立小塩江小学校	
郡山市立富田西小学校	
郡山市立富田東小学校	
郡山市立薫小学校	
二本松市立塩沢小学校	
桑折町立睦合小学校	
福島市立福島第三小学校	
福島市立福島第一小学校	

年度別応募状況

年 度	応 募 校 数				応 募 作 品 数			
	小学校	中学校	高等学校	合 計	小学校	中学校	高等学校	合 計
平成18年度	29	10	1	40	951	385	25	1,361
平成19年度	32	6	4	42	1,749	211	115	2,075
平成20年度	29	2	2	33	1,683	268	45	1,996
平成21年度	24	2	4	30	1,401	159	64	1,624
平成22年度	42	7	2	51	2,859	757	24	3,640
平成23年度	35	7	1	43	3,325	912	4	4,241
平成24年度	47	11	18	76	3,666	735	338	4,739
平成25年度	60	14	20	94	5,602	1,048	889	7,539
平成26年度	48	6	12	66	5,175	1,018	1,027	7,220
平成27年度	45	12	13	70	3,992	1,373	76	5,441
平成28年度	44	11	9	64	4,847	1,433	405	6,685
平成29年度	43	12	9	64	3,542	1,048	477	5,067
平成30年度	35	11	7	53	3,043	1,047	397	4,487
令和元年度	39	8	7	54	2,784	457	198	3,439
令和2年度	26	7	6	39	2,210	744	76	3,030
令和3年度	30	6	9	45	2,120	403	355	2,878

令和3年度 テーマ別応募作品数

	小学生	中学生	高校生	合 計
いのちの詩・愛の詩	614	112	74	800
わたしにできるボランティア	661	103	123	887
わたしのふるさと	511	67	69	647
わたしが感動したことばやできごと	334	121	89	544
応募総数	2,120	403	355	2,878

作品を読んで

ほっとしました。

いつもより作品応募がぐんと少ないのではと。

何しろ、大変な年が二年間も続いているのですから。

見えない敵、コロナ、まさに禍の中であって…。

減少しましたが、三千点に迫る作品が寄せられました。

暑さの中でのマスク、歓声も飛び交わない状況にもかかわら

ず、作品には子供たちの悲痛な叫びは聞こえてきません。

多くの作品が、生き生きと新鮮に力強く、眼に飛び込んできました。

どうしてか、不思議です。

そう思って、詩の部門を一次審査の作品から丁寧に読みました。

「コロナ」を題材にした二十一篇の作品を見つけました。

いのちの危機に結び付くだけに、どの作品も真剣です。大人以上にがんばり、乗り越えようとしている。嘆きの詩ではないのです。

成長期、生きる力に満ちているからに違いありません。

飯豊小 四年 杉本結月さんの作品を紹介します。

今年の夏は、最悪だ。暑いのに、マスクをしないといけない。

マスクの中がムシムシする。

遠くにお出かけできない。お祭りもない。

辛いことばかり。

でも、みんなの幸せのために、今できることをやる。

コロナに負けない。 (よく書けている作品ですよ)

しかし、書く方も、読む方も、好んで一〇〇文字には向き合いたくない気持ちがあるのです。感染の恐ろしさには、加害者の立場になるという不気味さをもっているからです。未来への夢や希望が表現しにくいのでしょうか。

それに引き替え、東日本大震災の体験や復興への思いを綴ってきた、書きつないできた十年間。それは、今回の応募にも寄せられています。

一篇紹介します。白河実業高校 三年 大口 峻兵さんです。

震災の時 福島に残った父 医師として責務を務めた父
駅で見たあなたの背中はいつより大きく
偉大に見えた
(復興支援の意味も込め、未来へ)

いずれにしても、作品は時代を映す鏡です。これから、青少年赤十字メンバーのみなさんからたくさんの方が寄せられ、「一〇〇文字提案」が充実していくことを願います。

最後に、審査をとおしての感想をいくつか紹介して結びに替えます。

- | | | |
|---|---|--------------|
| 1 | 書き出しを工夫した作品は、魅力があります。
「ママが大きいばあちゃんのオムツをかえる」
「久しぶりに会ったおじいちゃんの腰…」 | 10 頁
24 頁 |
| 2 | いかにもピッタリな言葉が生きています。
「…ぶにぶにしている　とてもかわいい」 | 11 頁 |
| 3 | 体験から書いた思いには、力があります。
「わたしのふるさと。二つのふるさと。」 | 7 頁 |
| 4 | 最後の一行に、にっこりします。
「おおきな　ゆめ　いつてきます」
「ぼくがごみをもってかえるね」 | 15 頁
6 頁 |

令和三年十一月 二次審査会にて

審査委員長 藤 田 伸 朔

審査にご協力いただいた皆様（敬称略）

☆ 審査委員長（福島県青少年赤十字賛助奉仕団顧問）

○藤田 伸朔

☆ 審査委員（赤十字指導講師、青少年赤十字福島県指導者協議会地区会長、福島県青少年赤十字賛助奉仕団員）

青山 邦夫 阿部 友紀 荒川 孝子
伊藤 勝彦 岩渕 孝 鵜沼 美枝子
大杉 和規 小島 英二 面川 孝子
勝倉 孝行 金川 千佳子 金谷 哲
木下 忠孝 児島 昌詮 後藤 さとみ
午来 勝顕 今野 滋子 佐藤 久間 仁
佐藤 光男 今野 吉則 佐藤 亮治
耕田 祐子 鈴木 昭雄 鈴木 進一
鈴木 雅之 鈴木 美津子 鈴木 英孝
瀨川 和弘 高野 博幸 高橋 恵子
高橋 澄子 武田 幸子 千代田 幸子
○土屋 悦男 圓谷 厚子 鶴見 常夫
中野 喜久枝 野木 勝弘 平田 桂子
菱沼 明美 廣瀬 要人 松本 光司
星 仁子 村田 貞夫 目黒 美智子
皆川 晃 山口 彌代 山下 富夫
山内 寿一 吉岡 映子 吉田 佳正
吉内 次夫 渡部 毅 渡部 祐司
○横山 貴英 安田 悠子 三浦 正彦
福地 敏教 長谷川 文之 東條 有克
土田 宏 高橋 光雄 鈴木 義人
鈴木 博 下重 悦子 佐藤 和子
○小林 伸行 管野 孝司 春日 芳則
遠藤 さとみ 石井 幸男 石井 幸男

（日本赤十字社福島県支部）

事務局長
事務局付部長
組織振興課長兼ボランティア係長
組織振興課

※○印…二次審査員

佐藤 宏隆
岸波 庄一
石田 政幸
佐藤 敦子
阿部 正明
小池 樹里

